

STS フォーラム第 2 回年次総会

フォーラム声明

2005 年 9 月 13 日、京都

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラムの第 2 回年次総会が、68 の国・地域より、約 500 名の科学者、政治家、産業界のリーダー、そして、オピニオンリーダーの出席のもと、9 月 11 日から 13 日に開催された。皇太子殿下が開会式にご出席され、本フォーラムの目的に対してご支持を表明された。また、小泉総理は、科学技術を用いて人類の将来の繁栄を確たるものとするのが重要であると述べた。科学技術の光と影に関し、人類の将来を見据えた活発な意見交換が行われた。主なポイントは次のとおりである。

人類の持続可能な発展への鍵は環境との調和にある。CO₂ その他気候を悪化させる温暖化ガスに関しては、世界のすべての国が参加する現実的、かつ有効な枠組みを構築することの必要性を認識した。

太陽エネルギー、バイオマス、水素などの再生可能エネルギーの開発の必要性に合意する一方、安全性確保と不拡散という厳格な条件のもと、核分裂を用いた原子力の利用はきわめて重要であり、また、将来に向け、核融合推進のための投資は必要不可欠であるとの共通認識を持つに至った。

すべての国の研究者が協力し合い、かつ等しく競合できるような生命倫理にかかる共通のルール、あるいは基準の構築をする試みが重要であると認識された。

我々は、情報通信技術、ICT の更なる進展が人類の将来の繁栄をもたらすものであるとの点で意見の一致を見た。多くの参加者が、相互運用性、セキュリティや個人情報の保護が情報社会の進展にとって不可欠であることに合意した。我々は、すべての人々に科学技術の知識が均等にいきわたるために、デジタル・アーカイブが重要であるとの認識を持った。デジタル・デバイドの解消は人類にとって共通の利益となり得る。

性別や人種や国籍によらず全世界の人々が等しく教育を受けられる機会を設け

ることが我々の将来にとって不可欠であるとの点で合意した。初等教育から高等教育にかけての教育は、すべての児童生徒の能力を伸ばすような厳格な環境のもとで行われなければならない。

世界規模の知的財産権システムの確立というアイデアが提唱され、多くの参加者の賛同を得た。

我々は、テロリストによる科学技術の利用を防ぐよう努力すべきであり、また、科学技術を利用したテロ防止の手段を開発すべきであるとの共通認識に立つに至った。

我々は、エイズのような感染症に対するワクチンや治療方法の開発が人類の将来にとって不可欠であり、また、それは科学技術が人類に貢献できる最も重要な分野の一つであるとの認識を得た。

さらに、人類を自然災害から保護するため、早期警戒、安全確保、救助システムのための国際協力と、このための科学技術のより効率的な活用が極めて重要であるとの点で合意した。

開発援助に関しては、我々の多くが人材育成を伴った科学技術にかかる支援が重要であるとの認識を持った。

毎年、科学技術は新たな発見や発明をもたらし、我々の生活、社会、文化に影響を与えている。我々は、本フォーラムが、この分野での最新の成果とその人類に与える影響について意見交換する重要な場を提供するものであると認識した。

あらゆる立場の人々が、科学技術の問題を自分自身のこととして考えることが重要である。科学技術の光と影の両面が人類に多大な影響を及ぼすとの認識のもと、我々は、科学技術が人類をコントロールするのではなく、人類が科学技術をコントロールすべきであるとの点で合意した。

フォーラム期間中に開催された評議会にて、本フォーラムを運営するための非営利団体を設立することが決定された。また、本フォーラムを毎年京都で行うこととし、来年は9月10日から12日まで開催することが合意された。